

H27-B-4 深度93.13~93.22m 最新活動面の走向・傾斜 (No.133) の変更に伴い、条線方向 (No.134) を変更

- H27-B-4孔 深度93.13mの断層面の走向・傾斜はN17°E75°Wであり、42Rの条線が認められる。

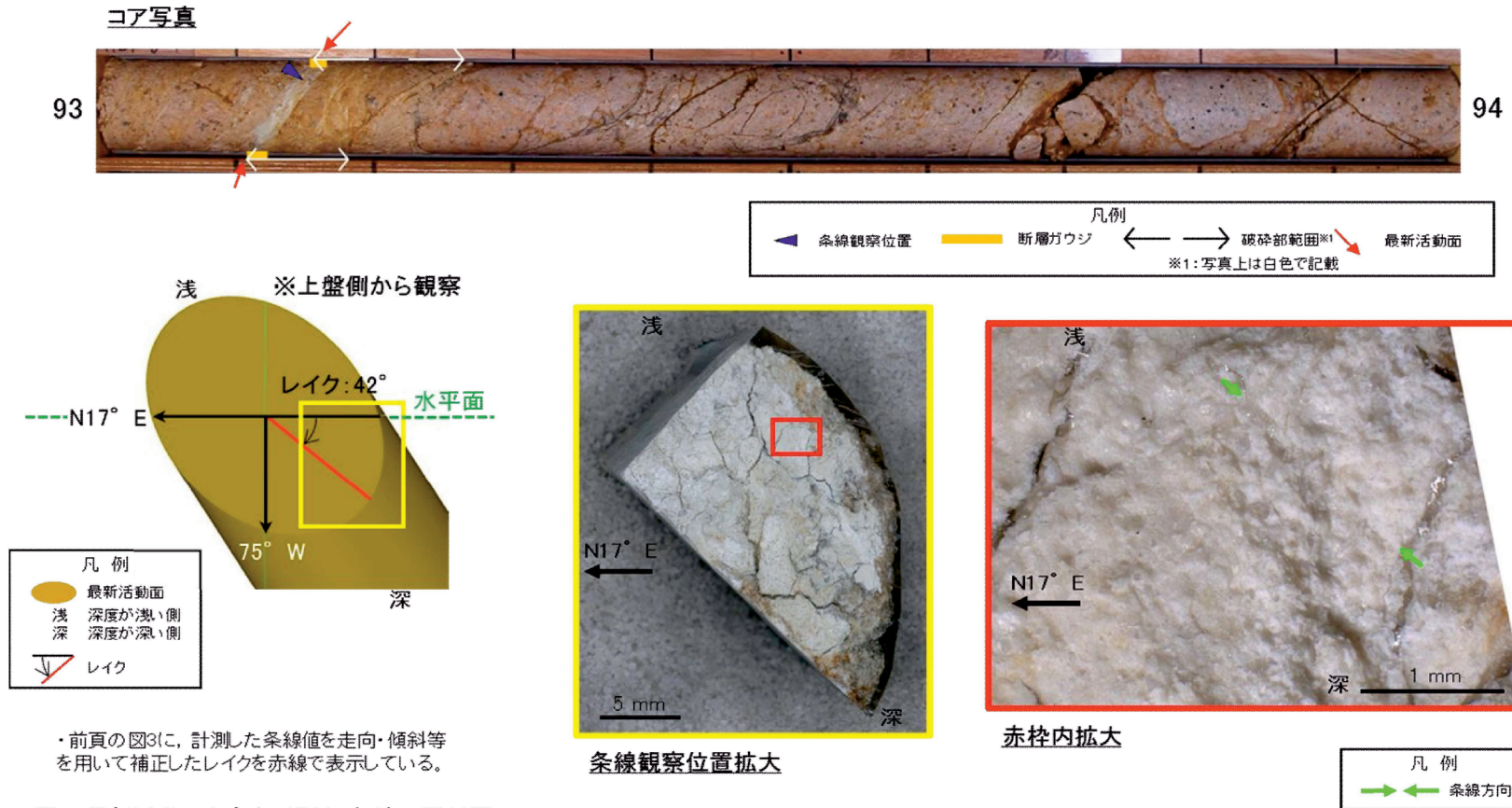


図4 最新活動面と走向・傾斜、条線の関係図

H27-B-4 深度93.13~93.22m 最新活動面の走向・傾斜 (No.133) の変更に伴い、条線方向 (No.134) を変更

- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真

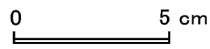


凡例
 ← → 破碎部範囲*
 ※: 写真上は白色で記載
 最新活動面

研磨片作製位置

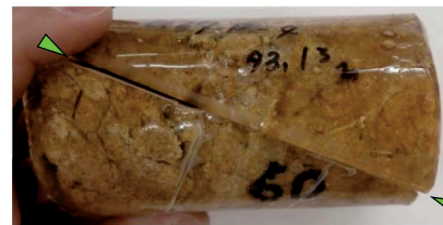


青枠部拡大



凡例
 最新活動面

研磨片写真(コア向き)



凡例
 試料切断方向

試料切断面



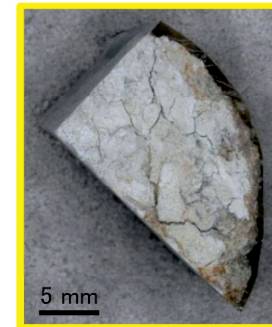
凡例
 最新活動面

条線観察位置



凡例
 条線観察位置

条線観察位置拡大



黄枠部拡大

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・断層ガウジの幅を0.6cmに見直し (No.135)

【理由】再観察に伴い，断層ガウジの幅を計測した結果，従前の「2.0cm」を「0.6cm」に変更した。

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 断層ガウジの幅を「0.6cm」に変更

H24-D1-5 深度47.47~47.89m 断層ガウジの幅 (No.135) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

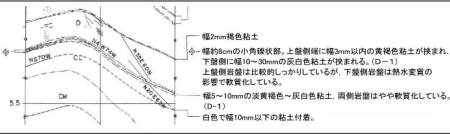
参考2-35頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記 (青太枠)

2.D-1破砕帯
性状一覧表 (7/12)

試料番号	深度 (m)	試料種類	試料径 (mm)	試料長さ (mm)	試料重量 (g)	試料水分 (%)	試料色	試料状態	試料特徴	試料写真	備考	
												試料位置
H24-D1-1 (破砕帯)	17.11	11925	6000	370	17.5	1.0	黄	細砂	細砂	正	41	17.5
H24-D1-4 (破砕帯)	15.91	1636	6100	530	21.0	2.5	黄	細砂	細砂	正	41	15.9
H24-D1-7 (破砕帯)	23.91	2642	6100	530	30.0	3.2	黄	中砂	細砂	正	41	23.9
H24-D1-1 (破砕帯)	47.47	4739	6100	530	20.0	2.0	黄	中砂	細砂	正	41	47.4

No.135
2.0



凡例
 破砕帯動面 ← → 破砕帯
 断層ガウジ
 粘土の存在が認められる箇所
 *1 断層
 *2 断層

【破砕帯】
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角塊状破砕部、
 崩壊した粘土状破砕部、崩壊した砂状破砕部、
 の存在が認められる。破砕帯の境界線は破砕帯の境界線とする。
 【参考】
 黄：黄砂、黄砂状動面が連続的なもの
 赤：黄砂、黄砂状動面が連続的なもの
 参考2-35

試料番号	深度 (m)	試料種類	試料径 (mm)	試料長さ (mm)	試料重量 (g)	試料水分 (%)	試料色	試料状態	試料特徴	試料写真	断層区分	
											断層区分	断層区分
H24-D1-1 (破砕帯)	17.11	11925	6000	370	17.5	1.0	黄	細砂	細砂	正	41	17.5
H24-D1-4 (破砕帯)	15.91	1636	6100	530	21.0	2.5	黄	細砂	細砂	正	41	15.9
H24-D1-7 (破砕帯)	23.91	2642	6100	530	30.0	3.2	黄	中砂	細砂	正	41	23.9
H24-D1-1 (破砕帯)	47.47	4739	6100	530	20.0	2.0	黄	中砂	細砂	正	41	47.4

No.135
0.6

※1 断層区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を修正した値を記載
 ※3 卓越しない部分については「-」を記載(固成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 (上記以外) データを取得していない箇所

凡例
 破砕帯動面 ← → 破砕帯
 断層ガウジ
 カラマーバーが付いていない区間はカラーサイトを示す
 断層動線

H24-D1-5 深度47.47~47.89m 断層ガウジの幅 (No.135) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表に断層ガウジの幅を2.0cmと記載していたが、以下のことから、0.6cmが正しい値であるため、2.0cmから0.6cmに変更した。
- コアの再観察の結果、深度47.47~47.48mに分布する断層ガウジの幅は0.6cmであった。
- コア観察カードには灰褐色粘土の厚さ3~6mmの記載があり、従前提示していたデータである2.0cmは、断層ガウジと平行に下端側に分布する灰白色の粘土質礫状の部分も断層ガウジであると誤認して測定したものと推定される。

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料 (H24-D1-5 深度47.47~47.89m)

・実測した断層ガウジの幅は0.6cmである。

コア写真



凡例

 断層ガウジ ← → 断層部範囲*
※:写真上は白色で記載

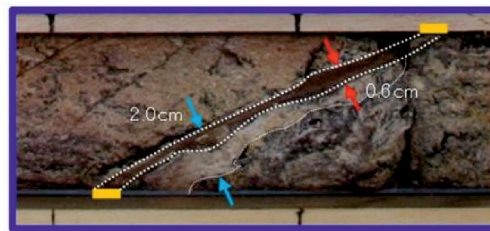
幅の記載 →

該当箇所のコア観察カード

-47.47 ~ 47.49 m : 破砕帯 (D-1 破砕帯)
 -47.47 ~ 47.48 m : Hc-1 (3ヶ所断面・47.47 m)
 上部は下部ほど、両端は正角のシフトに連続。
 1.5~2.0mm 石英粒の少量を含む灰褐色(2.5YR 7/2)の軟弱な粘土
 厚は3~6mm
 -47.48 ~ 47.66 m : Hb
 上部は下部ほど、上部は正角のシフト、下部は
 正角のシフト。
 2~3mm 石英粒と1.5~10mmの石英の粘土にGp高片を含む
 軟弱な灰褐色粘土で、粘土は灰褐色(2.5YR 7/2)。石英粒の厚さは
 12~20mm 程度で角状化等。
 厚は2.67mm (60°)



青枠部拡大



青枠部拡大



凡例

- ← → : 従前の断層ガウジ幅
- ← → : 変更後の断層ガウジ幅

Lカットピット 複合面構造の解釈線 (No.136) 及び最新活動面の矢印の位置 (No.137) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

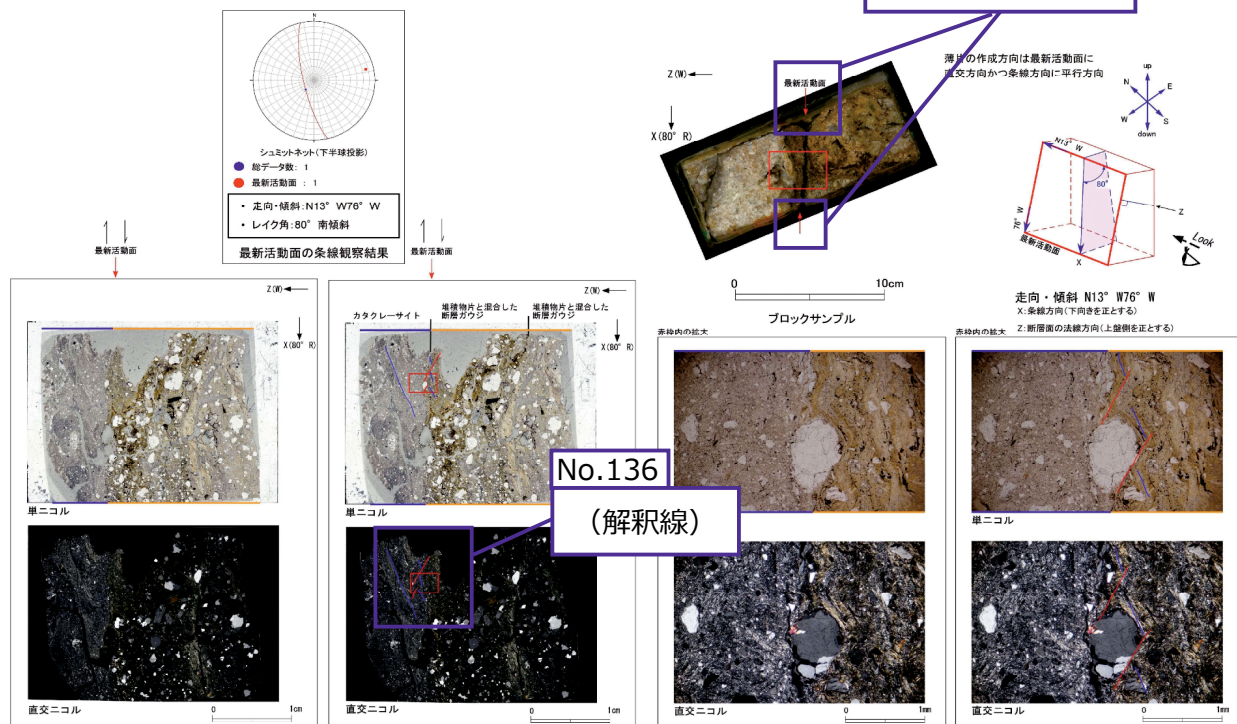
参考1-51頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

K断層 薄片試料観察(D-1トレンチLカットピット)

D-1トレンチLカットピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、逆断層成分が卓越する。

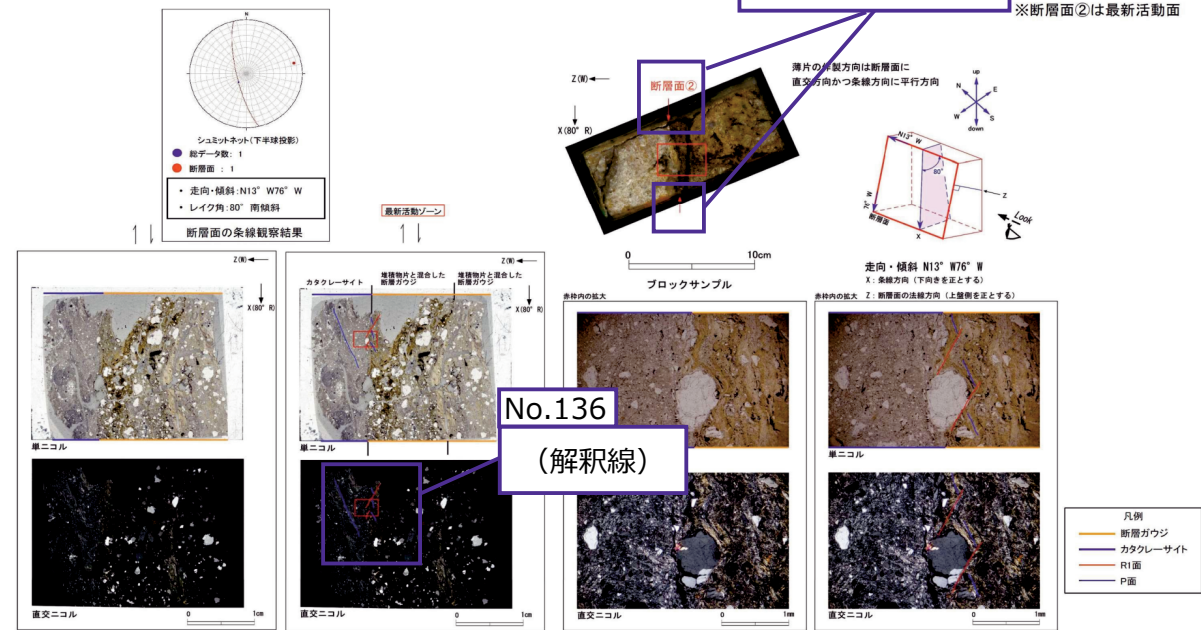
(赤矢印の位置)



参考1-51

D-1トレンチLカットピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 > (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 > (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 > (断層ガウジ)粘土状部は帯状で直線的である。
 > (カタクレーサイト)角ばった堆積物片が多い。

(赤矢印の位置)



第7.4.4.404図 (4) K断層 破碎部性状 D-1トレンチLカットピット (変位センス, 薄片観察による断層区分(1/2))

Lカットピット スケッチ (No.138) を最新版に修正

従前

見直し後

第833回審査会合

資料1

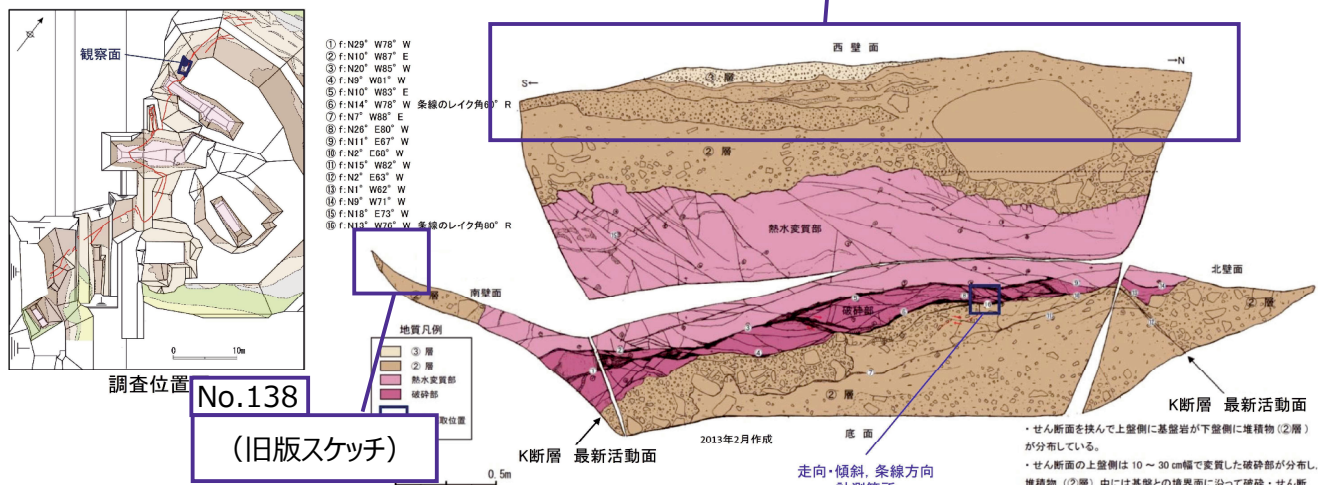
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について (コメント回答)

26頁

第833回審査会合 資料1に追記(青太梓)

K断層の連続性評価について
K断層の性状(Lカットピット)

- Lカットピットのスケッチを以下に示す。
- Lカットピットでは、K断層は基盤岩と堆積物(②層)とを境している。
- 最新活動面の条線方向を確認した結果、縦ずれ成分が卓越する。また、最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。



K断層の最新活動面に関するデータの計測箇所について

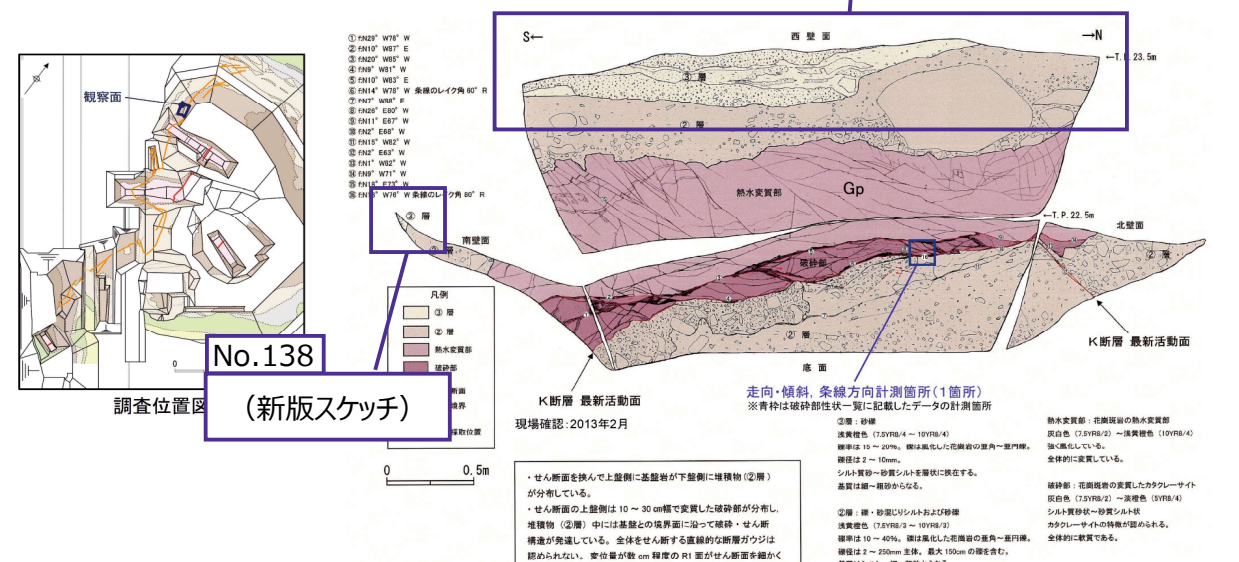
性状一覧表に記載した走向・傾斜、条線方向:
全ての観察面について、断層面のトレンドを示す代表的な箇所計測。一連の断層面については、複数計測した平均値を記載。(ただし、Lカットピットについては、走向・傾斜が断層面のトレンドを示す範囲が狭いことから1箇所とした。1-1ピット北面、南面、底盤については各観察面の平均値とした。)

性状一覧表に記載した断層ガウジ・断層角礫の幅:
岩盤中の断層ガウジ・断層角礫について、平均的な幅を示す箇所計測。

スケッチに記載したデータ:
上記に限らず走向・傾斜、条線方向及び断層ガウジ・断層角礫の幅を計測可能な出来るだけ多くの箇所計測。

No.138 (新版スケッチ)

- D-1トレンチLカットピットでは、K断層は基盤岩と②層とを境している。
- 最新活動面について条線方向を確認した結果、縦ずれ成分が卓越する。最新活動面の薄片試料観察による変位センスは逆断層センスである。



K断層の最新活動面に関するデータの計測箇所について
破砕部性状一覧に記載した走向・傾斜、条線方向:
全ての観察面について、断層面のトレンドを示す代表的な箇所計測。一連の断層面については、複数計測した平均値を記載。(ただし、Lカットピットについては、走向・傾斜が断層面のトレンドを示す範囲が狭いことから1箇所とした。1-1ピット北面、南面、底盤については各観察面の平均値とした。)

破砕部性状一覧に記載した断層ガウジ・断層角礫の幅:
岩盤中の断層ガウジ・断層角礫について、平均的な幅を示す箇所計測。

スケッチに記載したデータ:
上記に限らず走向・傾斜、条線方向及び断層ガウジ・断層角礫の幅を計測可能な出来るだけ多くの箇所計測。